

【資料6】企業会計基準委員会（ASBJ）への働きかけについて

- 前回10月24日の検討委員会の会合において、貸出及び債券の参照金利にかかる課題として、貸出・債券両SGの議長より、「新たな参照金利を使用するにあたって、ヘッジ会計が適用されない恐れ」が指摘され、その対応策として、「国際的な動向も踏まえつつ、金融庁や企業会計基準委員会（ASBJ）に働きかけを行っていく必要」があると報告されたところ。
- この間、国際的な動向としては、12月12日に、IASBが、金利指標改革が財務報告に与える影響に関して調査した結果を受け、基準設定作業に取り組むことを決定した。
- また、上記報告を踏まえ、事務局及び金融庁が、ASBJに対し、金利指標改革の背景・概要、及び、ヘッジ会計に関する問題とその喫緊性について、説明を行った。
- 本邦においても、ヘッジ会計が継続的に適用されるか否かは、今後、LIBORの後継金利への移行及びフォールバックに係る検討を進めていく上で、重要な判断材料となる。また、フォールバックに関しては、實際上、貸出については膨大な件数の契約を改定する必要がある、また、社債については社債権者集会等において社債要項の文言の変更手続を実施する必要があるため、相応の時間を要する。
- 以上を踏まえ、ヘッジ会計に関する問題について、ASBJにおいて早急に検討が進められるよう、検討委員会として必要な情報提供を行うなど協力して参りたい。

以　　上